

これは、2009年6月5日にダイムラーAGから発表されたプレスリリースの日本語抄訳です。

ご参考

Press Information

新型 E クラスが環境認証を取得

2009年6月8日

すぐれた安全性、快適性、低燃費を実現した新型 E クラスが、このほど独立検査機関 テュフズードにより、環境適合性においても卓越した性能を達成していることが確認されました。これにより新型 E クラスに対し、2009年世界環境デーの6月5日付けで、多くのメーカーが取得を目指している ISO 14062 に準じた環境認証が交付されることとなりました。ダイムラーグループでは、包括的環境保護を全社業務指針に明確に規定して取り組みを進めていますが、今回の認証取得によってその努力が認められたこととなります。環境認証は、環境に関連するあらゆる面を評価・文書化した新型 E クラスの包括的環境収支にもとづいて認められたものです。メルセデスでは新型 E クラスのほかに、A、B、C、S クラスがすでにテュフズードより環境認証を取得。また、GLK クラスも先月、メルセデス・ベンツの SUV として初めてこの認証を取得しました。

世界環境デーは、1972年6月5日にスウェーデンのストックホルムで国連人間環境会議が開幕されたことを記念して制定されたものです。今年の環境デーは、「環境保護 — 私たちの健康のために」をテーマに、多くのキャンペーンやイベントが行われています。

新型 E クラスの開発では、環境認証取得のために環境関連プロセス 4 万件以上を検討。これらを解析、定量化、評価することで、包括的なエコプロファイルを作成しました。このプロファイルがテュフズードによる環境認証審査の基礎資料となりました。メルセデス・ベンツの他の環境認証取得モデルシリーズと同じく、E クラスにおいても、作業は「環境配慮型設計」(DfE)と呼ばれる製品開発プロセスからスタートしました。この DfE を開発プロセスに組み込むことで、環境に関連したあらゆる側面を開発のきわめて早い段階で考慮することが可能になったのです。さまざまな専門部門のエンジニアからなる DfE チームを設置することにより、環境収支、分解およびリサイクル計画、材料およびプロセス・エンジニアリング、設計、生産などについて設定した環境目標を達成することができました。

ダイムラーAG 最高環境責任者のヘルベルト・コーラーは、「ダイムラーは環境志向の自動車メーカーとして、環境保護については特別大きな責任を自覚しており、車両の環境適合性を、生産から長年の使用、そして廃車後のリサイクル、廃棄にいたるライフサイクル全体にわたって解析しています。これは法律の規定をはるかに上回る作業であり、こうした詳細な検討を通して、E クラスの環境認証に向けた基礎データが得られるほか、さらなる可能性が明らかとなります。これらの可能性は研究開発において精力的に活用されています」と述べています。なお、上記の環境認証およびその詳細に関してはウェブサイト www.mercedes-benz.com にてご覧いただけます。

環境適合性が先代モデルに比べて向上

E クラスの生産から 25 万 km におよぶ走行利用、そして最終廃棄処分にいたるライフサイクル全体の CO₂ 排出量については、2002 年導入時の先代に比べて 14%も少なくなっています。また、窒素酸化物 (NO_x) については、20%もの削減を達成しました。これには、NO_x の排出量を大幅に低減した新型エンジンの採用が大きく寄与しています。さらに、総合エネルギー収支もプラスとなりました。これは、ライフサイクル全体について、1 次エネルギーの消費量が先代モデルより 13%も節約されたため、削減量はガソリン 3,200 リットル分のエネルギーに相当します。

リサイクル済み原材料や再生可能原材料を徹底利用する包括的環境コンセプト

E クラスは、2015 年 1 月 1 日から義務化される重量リサイクル率 95%の要件をすでに満たしています。開発段階から、バンパーやホイールアーチのほか、サイドメンバー、アンダーボディ、エンジンルームの被覆材などの特定プラスチック部品について、材料の分別や分解性について十分な配慮を行いました。リサイクル済み高品質プラスチックで作られた部品の数は合計 43 点、総重量は 41.5kg となっています。これにより、リサイクル済み材料による認定部品の重量は先代モデルに比べて 80%も増加しました。また、クローズドループ実現の観点から、車両関連廃棄物フローからリサイクル済み材料をできるかぎり入手しました。例えば、フロントホイールアーチに使用したリサイクル済み材料は、メルセデス・ベンツ・リサイクルシステムにより処理されているスターターバッテリーのハウジングやバンパー被覆材などの再処理済み自動車部品のほか、コックピット製造過程で発生する廃棄物が原料となっています。

また、天然素材による部品は 44 点、総重量約 21kg となっています。例えば、トランクのフロア材ではボール紙によるセル構造を採用するとともに、フュエルタンクの通気部分にも天然素材を使用しています。さらに、チャコールフィルターにはオリーブを原料としたコークスを採用。このコークスは多孔性で、エンジンから排出された炭化水素を吸収するほか、クルマの走行中に自動的に再生します。シートファブリックにおいても、再生可能原材料を多用しており、純羊毛の使用率は約 25%となっています。羊毛には合成繊維に比べて静電特性が非常に良好であるうえ、吸湿性にもすぐれるという利点があり、高温時もシートを快適に保ちます。